

カトリック山手教会月報

やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>

第588号 2018年10月14日

山手という場から始まったこと

主任司祭 ミカエル鈴木 真



4月に山手に赴任してから半年がたちました。やっと色々と落ち着いてきた気もしますが、まだまだ足りないところだらけだと思います。どうぞ皆さん、お助けください。

私が司祭になってから長く続けていることのほとんどは、22年前まで2年間、ここ山手に助任でいた時から始まりました。教区の青少年担当、木曜パトロールなどですが、中でも横浜雙葉学園とのかかわりもその一つです。1995年から宗教科の講師を務め、2008年からはチャプレンという職務もいただいています。わたしは母が長年、鎌倉の清泉小学校の事務員をしていたことから、清泉という学校とのつながりはあった（わたし自身は卒業生ではありません）のですが、まさか横浜雙葉学園とこんなに長いかかわりを持つとは思っていませんでした。わたしは神学校に入る前、日本大学の商学部を出ました。日大では教職課程を履修したのですが、別に教師を目指していたわけでもなく、〈教員免許くらい取っとくか〉程度のことでした。大学4年生の時、出身校である鎌倉市立第一中学校で教育実習をしましたが、その時なぜかはっきりと〈あ、俺はこの道ではない〉と感じました。言葉ではうまく言えないのですが、ああ、俺には教師の召命はない

な、と。もともと教師になるつもりもありませんでしたが、自分とは無縁の世界だな、となんとなく思いました。ところがその後、上智大学神学部で横浜雙葉学園の現理事長の千葉先生と出会ってしまい、山手教会に助任として赴任した時、横浜雙葉学園で宗教科を担当して欲しいと言われました。何かと語り草にしていることですが、その時は、すかさず大学4年の時の体験をお話し、「わたしは教師の召命はありませんので、すみませんがお断りさせていただきます」と言うと、なんと千葉先生は「いやいや、我々は教師が欲しくて頼んでるんじゃない。司祭が欲しいんだよ」と返されました。う～ん、そう来たか…と一瞬、躊躇した隙を突かれて、あの手この手で説得され、とうとう引き受ける羽目になってしまい…高校2年生を9年間、その後、中学1年生を担当して、なんと今年で15年目…〈神さま、あの教育実習の時感じたあれは一体何だったんですか?〉とか思うわけですけど、2008年からチャプレンに就任してからは、改めてカトリック学校の意義と重要性を感じ（わたしは公立の出身なので、一層それを感じるわけです）、わたしのような教区司祭がカトリック学校と関わることに、現代的な教会の姿が示されていると実感しています。まあ、神さまのわざはホントに不思議…これからもそんな信仰の体験を、皆さんと分かち合いたいと思います。